

科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書

平成24年5月17日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21720021

研究課題名(和文) 神話にみられるヒトと自然の相互関係
—東アジア基層文化の宗教民族学的研究—研究課題名(英文) Relationships between humans and nature reflected in myths:
An ethno-religious study of East Asian folk cultures

研究代表者

山田 仁史(YAMADA HITOSHI)

東北大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：90422071

研究成果の概要(和文)：本研究では、大きく以下の四つの成果が得られた。第一に、狩猟・漁民の世界観の核心をなす〈動物の主〉観念について、先行研究の蓄積を踏まえつつ、根本的な考察を加えたこと。第二に、アイヌにおける〈動物の主〉観念を神話伝承から再検討し、北米およびシベリア諸民族の類例との比較を行なったこと。第三に、広くヒトと自然のかかわりについての神話として、天体、洪水などの災害、および焼畑をめぐる諸伝承・諸観念を明らかにしたこと。第四として、神話理論・神話研究方法論の見直しをこれら三点と並行して推進し、成果を公表してきたことである。

研究成果の概要(英文)：The present study yielded four major results that follow. First, the concept of “master of animals,” which forms the core of the hunting-fishing worldview, has been given a fundamental reassessment on the basis of accumulated preceding studies. Second, the “master of animals” of the Ainu has been reconsidered from their mythological narratives, and compared with parallels of North American and Siberian peoples. Third, myths concerning the relationships between humans and nature in a broader sense, such as oral traditions and ideas about astral bodies, natural catastrophe like flood, and swidden cultivation, have been investigated. Fourth, along with the above mentioned three points, theories and methodologies of mythology have been re-examined and its results have been made open to the public.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：比較宗教学

1. 研究開始当初の背景

本研究開始にあたっては、2つの背景が存在した。

(1) 第一に、国内外における神話研究の高

まりが挙げられる。国内では1990年代後半以降、篠田知和基氏の主宰する比較神話研究会が毎年シンポジウムを開催しており(山田は2003, 07, 10, 11, 12年に参加・発表)、

2003年より環太平洋神話研究会が活動を開始（山田は幹事の一人）した。国外では、国際比較神話学会（International Association for Comparative Mythology）が2006年に立ち上げられ、ほぼ毎年例会を開催している（山田は06年北京、07年エジンバラ、10年ハーバードに参加・発表）。こうした中で、大きな関心を持たれているのは基層文化である。すなわち、現生人類の出アフリカという出来事以来、ヒトの集団移動とともに地球上各地にもたらされた神話の存在が、注目を集めている。本研究は、地域を東部アジアにしぼり、テーマも限定した形で、こうした国際的動向に呼応するものである。

（2）そうした地域として選んだのは、まず山田がこれまで研究対象としてきた台湾および東北日本を中心とする、東アジアである。そしてテーマとしては、ヒトと自然環境との付き合い方が世界的に喫緊の課題となっている現状を踏まえ、狩猟・漁労民の自然認識とした。とりわけ〈動物の主〉と称される動物社会のリーダー観念を中心に、関連する神話伝承を研究することにより、神話に反映された漁猟社会の世界観を探究した。

2. 研究の目的

上述の背景から、研究には二方向の具体的な目的を設定した。

（1）まず、東北日本および台湾を中心とする地域における神話伝承を広く集め、分析して、国外へ向けて発信すること。台湾は戦前における日本統治期の蓄積により、日本語資料の豊富な地域である。よって、これは国際的な神話学界に対する、日本人ならではの貢献と言える。

（2）次に、国際学界における既往の神話研究理論およびケーススタディの蓄積を吸収し、国内または台湾ないし周辺諸地域の事例にフィードバックするという方向性。

実際にはこれら2方向の目的は相互に関連しあっており、厳密に区分することは困難であるが、意識しつつ研究を進めた。

3. 研究の方法

研究方法としては、文献を主体としつつ、フィールドにおける実態調査も行なった。

（1）神話伝承の基礎的資料として、文献の収集に力を入れた。ことにアイヌや東北日本に関する資料としては、基本的な文献を相当量収集し、一部分析を行うことができた。アイヌ語の基礎的知識の習得にも努め、文法はひととおり理解した。

（2）フィールドとしては、東北地方において鮭石（秋田県に多い魚が線刻された石）、山形県真室川町の大日堂（鮭の信仰が今も続

いている）、同県小国町のマタギの方々の調査などを実施した。国外では台湾原住民族の過去の焼畑とそれにかかわる観念について、聞き取り調査を実施した。また現在も焼畑が行われ、本格的な狩猟も続けられているラオス北部の少数民族の村において、実態調査を行った。

4. 研究成果

研究成果は、以下の4点にまとめられる。

（1）まず、狩猟・漁労社会の世界観において一つの核となる〈動物の主〉観念について、既往の諸研究の蓄積を踏まえ、根本的な考察を行なった〔学会発表：3〕。この観念は初めドイツ語圏の宗教民族学において主に研究が進められ、“Herr der Tiere”の訳語として従来〈野獣の主〉が用いられてきた。山田もこれにならっていたが、そもそも魚や鳥も含めて研究を進める場合、〈野獣〉の語感には適当ではないことを指摘し、これに代えて〈動物の主〉を用いることとした。この発表を通して、〈動物の主〉関連の先行研究はほぼ把握できた。

（2）具体的なケース・スタディとして、アイヌにおける〈動物の主〉観念についての研究をハーバード大学での国際比較神話学会で発表した〔学会発表：12〕。ここでは、高島らの先行研究も踏まえつつ、鮭の神（cep kor kamuy）と鹿の神（yuk kor kamuy）がそれぞれ人間に魚や獣を与える存在であること、そうした魚や鹿は神の口や袋の中にと述べられていることを指摘した。さらに、同様に袋や箱や家などの中に魚獣が入っており、それを〈動物の主〉が保護しているという観念は、シベリアのツングース系諸民族や北米にも見られることを論じた。

（3）〈動物の主〉以外に、より広くヒトと自然のかかわりに関する神話・観念として、天体をめぐる諸伝承を取り上げた〔雑誌論文：1・5、学会発表：1・5・7・8〕。これは2009年が国際天文年にあたり、このテーマが注目を集めたからでもあるが、いくつか興味深い考察結果を得ることができた。すなわち、天体現象についての観念も、人類の自然とのかかわり、とりわけ生業活動と密接に結びついていること。たとえば狩猟民においておおぐま座を猟師と見、プレアデス（すばる）が農耕暦の開始を告げると見なされていたり、オリオン座の三つ星が航海の目印となってきた、などである。他方、天体にかかわる神話や観念には地域や時代により資料の精粗がさまざまで、比較研究には大きな困難が伴うことも明らかになった。他に、ヒトと自然のかかわりについて推進した研

究としては、洪水など災害にかかわる神話の考察 [学会発表：6、図書：3]、焼畑をめぐる自然観の問題 [図書：6] がある。

(4) 以上の3点の基礎をなす研究として、神話理論および方法論の吟味・再検討も並行して進めた。その成果は以下のとおりである。20世紀神話学の二人の泰斗であるレヴィ＝ストロースと大林太良の神話研究を比較し、両者の研究には相違もあるが、ともに歴史と構造の両方を視野に入れていたことを論じた [雑誌論文：4]。ヨーロッパにおける啓蒙思想期からロマン主義期にかけての神話研究の勃興期に光を当て、北欧神話、印欧語族、エジプト・メソポタミア文明という三つの(再)発見が神話学の誕生を促したことを指摘した [学会発表：9]。さらに日本における民族学的神話研究の展開を再検討し、松本信広・岡正雄・三品彰英の三人がそれぞれ異なる背景を持ちつつも、日本民族文化の形成に関して共通した見解を抱いていたことを明らかにした [学会発表：10・11]。

なお、2011年3月の東日本大震災により、本研究もまたダメージを受け、期待していた進捗は大きく遅れを被った。その分は、近く口頭発表・論文さらには図書において公にしてゆくつもりである。すでに予定されているものとして、12年8月末から9月初めにサンクト・ペテルブルクで開催される第6回国際比較神話学会において、東北日本の漁獵伝承と環太平洋のそれとを比較する研究発表を行い、また『台湾原住民研究』16号に、台湾原住民族の〈動物の主〉観念について寄稿を申請中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

1. 山田仁史、神話における太陽・月・星の関係、東北宗教学、査読有、5号、2009、37-60
2. 山田仁史、盟神探湯の源流再考、国史談話会雑誌、査読無、50号、2010、265-287
3. 佐竹輝昭、佐藤健治、曾根原理、七海雅人、柳原敏昭、山田仁史、東北大学史料館所蔵「大島正隆文書」目録、国史談話会雑誌、査読無、51号、2010、1-69
4. 山田仁史、レヴィ＝ストロースと大林太良：神話学における構造と歴史、比較日本文

化研究、14号、査読無、2010、38-55

5. 山田仁史、日月の争いと星々の神話、説話・伝承学、査読有、19号、2011、21-40

[学会発表] (計16件)

1. 山田仁史、神話における太陽・月・星の関係、環太平洋神話研究会・南山大学記念大会、2009年7月4日、南山大学
2. 山田仁史、オランダ民族学・宗教学と台湾原住民研究、順益台湾原住民研究会、2009年8月6日、日本大学
3. 山田仁史、狩獵民の神話と世界観：〈動物の主〉再考、日本宗教学会第68回学術大会、2009年9月13日、京都大学
4. Yamada, Hitoshi, Doing Taiwan Yuanzhuimin (YZM) Studies as an Outsider: A Cultural-Historical Perspective, International Symposium on Taiwan Studies, 2009.10.25., Tohoku University
5. 山田仁史、台湾原住民有關星辰的觀念與神話、2009「新世紀神話研究之反思」國際學術研討會、2009年12月19日、中興大學
6. 山田仁史、大洪水 (Sintflut) と大火災 (Sintbrand) の神話、2010年比較神話学シンポジウムI、2010年1月6日、南山大学
7. 山田仁史、日月の争いと星々の神話、説話・伝承学会2010年度春季大会、2010年4月25日、花園大学
8. 山田仁史、天体神話の諸問題、第53回印度学宗教学会学術大会、2010年5月30日、大阪国際大学
9. 山田仁史、18世紀から19世紀にかけての比較神話研究、日本シェリング協会第19回大会、2010年7月3日、神奈川大学
10. Yamada, Hitoshi, Japanese Mythology from Ethnological Perspectives, XXth World Congress of the International Association for the History of Religions, 2010.08.20., University of Toronto

11. 山田仁史、日本における民族学的神話研究、日本宗教学会第 69 回学術大会、2010 年 9 月 5 日、東洋大学
12. Yamada, Hitoshi, “Master of Animals” of the Ainu, Fourth Annual International Conference on Comparative Mythology, 2010.10.09., Harvard University
13. 山田仁史、台湾のシンデレラ？、比較神話学シンポジウム、2011 年 1 月 5 日、名古屋市市政資料館
14. 山田仁史、日本と周囲諸地域のシャマニズムにおける弾弓、東北シャマニズム研究会国際シンポジウム、2011 年 2 月 21 日、東北大学
15. Yamada, Hitoshi, On the Origin of Ordeals in Japan, Le crime et le châtement dans la mythologie, 2011.09.01., Osaka University
16. 山田仁史、殺人は罪か？：首狩と人身供犠のあいだ、GRMC2012 比較神話学シンポジウム、2012 年 1 月 5 日、千葉大学

〔図書〕（計 8 件）

1. Shinoda, Chiwaki, Hitoshi Yamada et al., Librairie Rakuro, Mythes, Symboles, Langues, II, 2009, 290+416, 担当 63-76
2. 三浦秀一、山田仁史、他、東北大学出版会、東北人の自画像、2010、174, 担当 87-128
3. 篠田知和基、山田仁史、他、楽瑯書院、火と水の神話：「水中の火」、2010、440, 担当 157-176
4. 笠原政治、山田仁史、他、風響社、馬淵東一と台湾原住民族研究、2010、300, 担当 171-199
5. 篠田知和基、山田仁史、他、楽瑯書院、愛の神話学、2011、58+526, 担当 459-480
6. 原田信男、鞍田崇、山田仁史、他、思文閣出版、焼畑の環境学：いま焼畑とは、2011、588, 担当 337-372

7. Shinoda, Chiwaki, Hitoshi Yamada et al., Librairie Rakuro, Mythes, Symboles et Images, I, 2011, 305+446, 担当 21-36

8. 柳原敏昭、山田仁史、他、東北大学大学院文学研究科東北文化研究室、東北中世史の開拓者 大島正隆資料集、2012、250, 原資料の翻刻・目録作成などに参画（頁数での指示不可能）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田 仁史 (YAMADA HITOSHI)
東北大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：9 0 4 2 2 0 7 1

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし